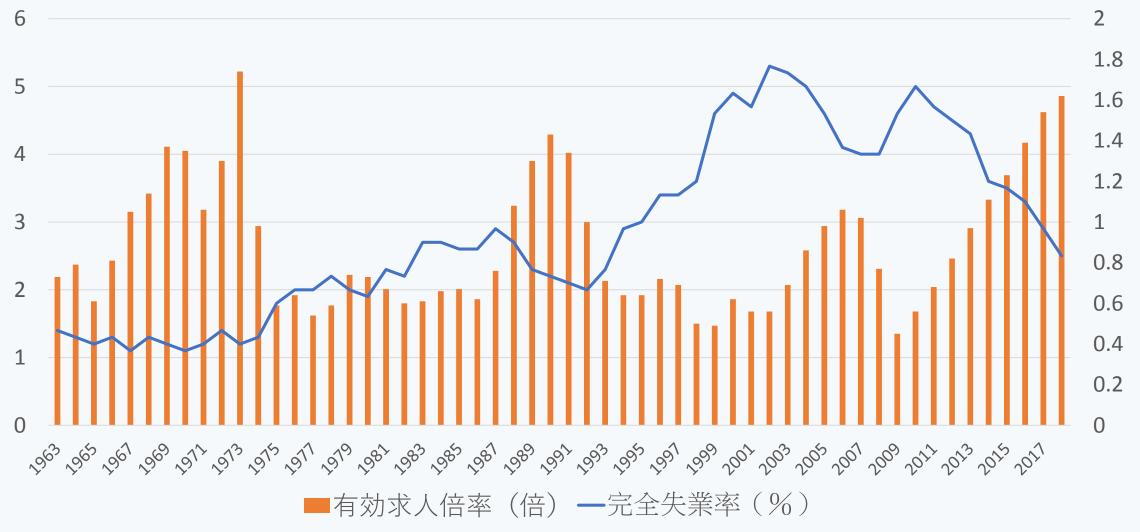


# 完全失業率・有効求人倍率



出典 厚生労働省 「一般職業紹介状況」

# 人手不足なのに なぜ完全失業率が0にならないか

# 完全失業率とは

(完全失業率の求め方=完全失業者÷労働人口)

完全失業者: 次の3つの条件を満たす者

- ①仕事がなくて調査週間中に少しも仕事をしなかった(就業者ではない)
- ②仕事があればすぐ就くことができる
- ③調査週間中に、仕事を探す活動や事業を始める準備をしていた

(過去の求職活動の結果を待っている場合を含む)

※完全失業者には外国人も含む



出典 総務省統計局 「労働力調査」<a href="https://www.stat.go.jp/data/roudou/longtime/zuhyou/lt01-a10.xls">https://www.stat.go.jp/data/roudou/longtime/zuhyou/lt01-a10.xls</a> 最終閲覧日 2019-0818

# 完全失業率が0にならないのはなぜか

現在の日本は失業が少ない

求職者の数が少ない

労働者の労働力の供給が少ない

有効求人倍率が高い 現在の日本は求人多い

企業の労働の需要が多い



現在の日本は完全失業率が0になるはず

# 雇用のミスマッチ

## 雇用のミスマッチとは

労働市場における需要量と供給量のバランスが 取れているにもかかわらず

求職者側と求人側との意向などが一致せず

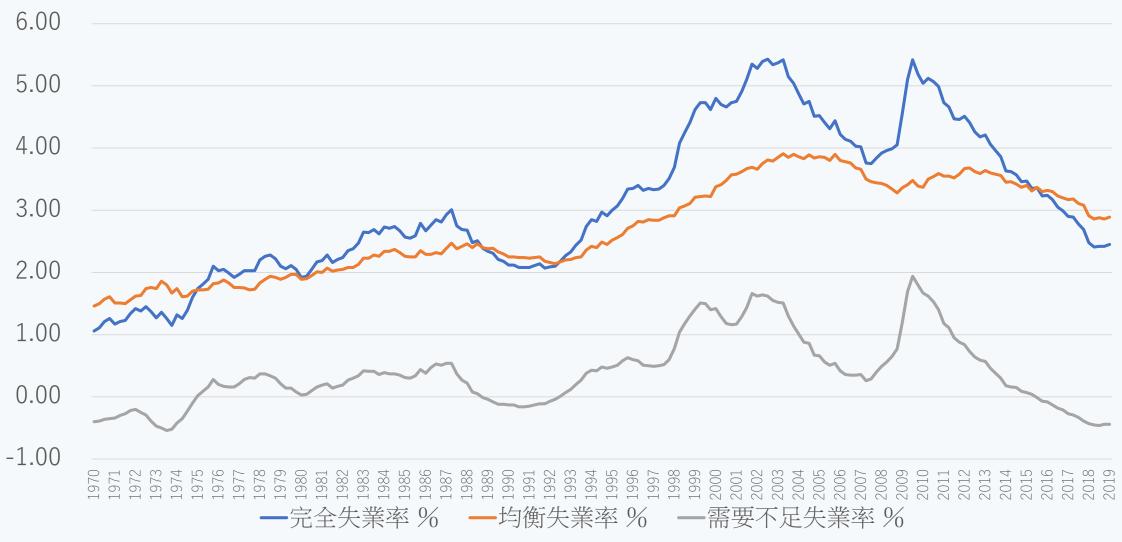
失業が発生している状態



出典 川田恵介・佐々木勝「雇用ミスマッチの概念の整理」日本労働研究雑誌 54(9),4-14,2012-09 厚生労働省職業安定局 「雇用を取り巻く環境と諸課題について」

https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-11601000-Shokugyouanteikyoku-Soumuka/0000062121\_1.pdf

## 均衡失業率・需要不足失業率



出典 労働政策研究・研修機構 2019-07 <u>https://www.jil.go.jp/kokunai/statistics/topics/uv/uv.html</u>

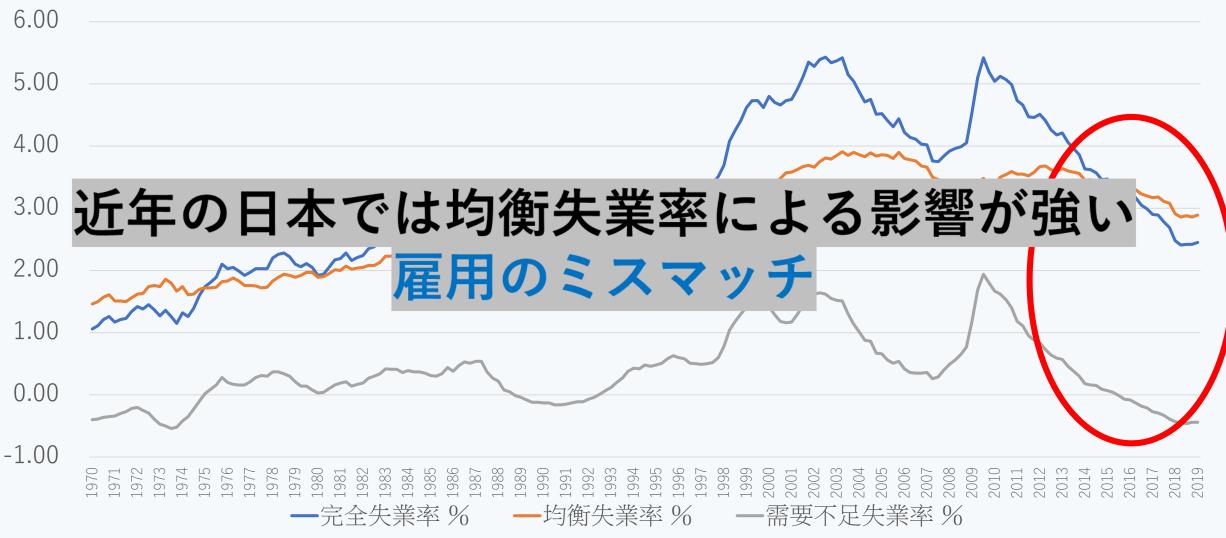
#### ●均衡失業率

→労働移動に時間を要するなどの理由で、 企業における欠員と同時に存在するような失業

#### ●需要不足失業率

→労働需要が減少することにより生じる失業

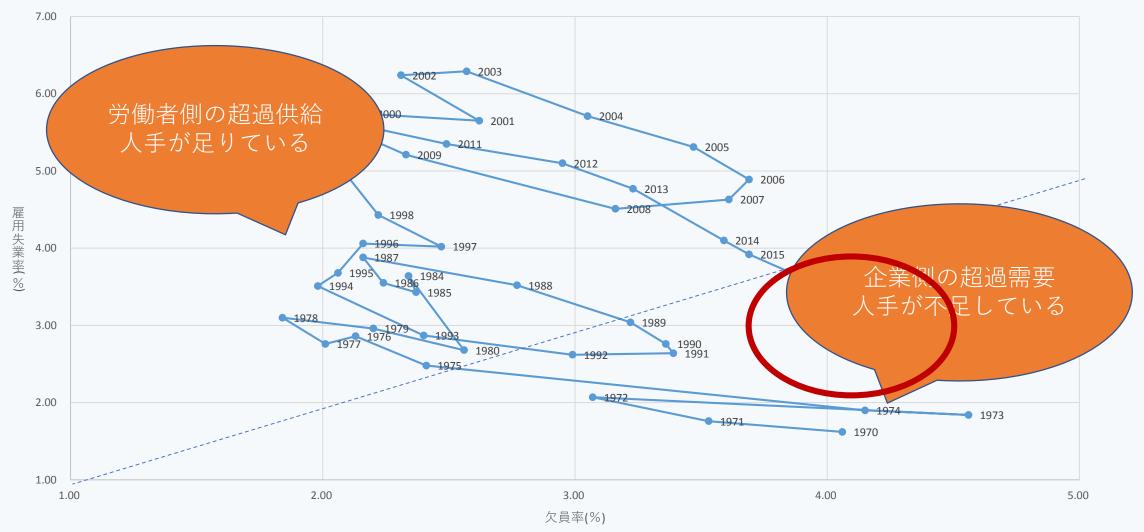
## 均衡失業率・需要不足失業率



出典 労働政策研究・研修機構 2019-07 <a href="https://www.jil.go.jp/kokunai/statistics/topics/uv/uv.html">https://www.jil.go.jp/kokunai/statistics/topics/uv/uv.html</a>

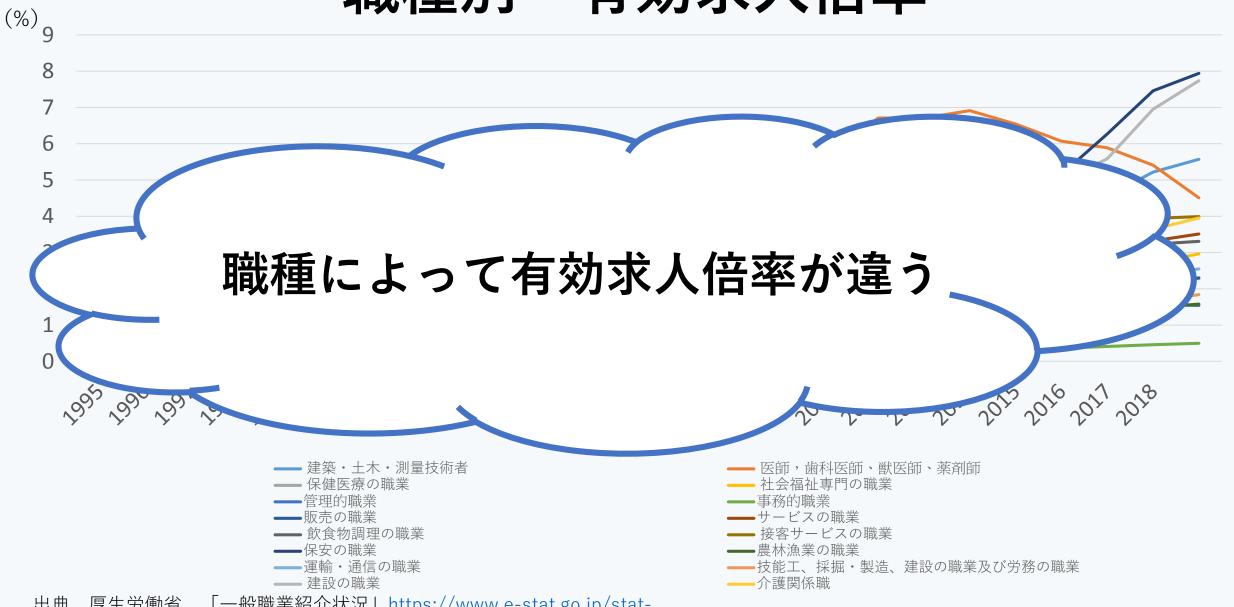
# UV分析

【失業率(Unemployment rate)と必要就業者数に対する欠員率(Vacancy rate)の相関関係から摩擦的・構造的失業を推定する。】



出典 労働政策研究・研修機構 「統計トピックス」<u>https://www.jil.go.jp/kokunai/statistics/topics/uv/uv.html</u>

#### 有効求人倍率 職種別



「一般職業紹介状況」https://www.e-stat.go.jp/stat-厚生労働省

### 職種によって有効求人倍率が違う

●有効求人倍率が高い職業

保安・建設・医療関係・サービス業・介護関係

●有効求人倍率が低い職業

事務職 · 農林漁業

→職種によるミスマッチ

# 雇用のミスマッチが生じる要因

#### ●職業能力の不一致

→企業が必要としている能力と労働者が持つ能力が不一致であることで生じる

#### ●情報の不完全性

→求人側・求職者側ともにどこにどのような求人・求職者が存在するかをすぐに 知ることができずに生じる

#### ●労働者や企業の選考

→職業、年齢、賃金、雇用形態、地域などについて、求職者の希望と企業側の希望が一致しないことから生じる

出典 川田恵介・佐々木勝「雇用ミスマッチの概念の整理」日本労働研究雑誌 54(9),4-14,2012-09 厚生労働省職業安定局 「雇用を取り巻く環境と諸課題について」 https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-11601000-Shokugyouanteikyoku-Soumuka/0000062121\_1.pdf

# 雇用のミスマッチが生じる要因

#### ●職業能力の不一致

→企業が必要としている能力と労働者が持つ能力が不一致であることで生じる

#### ◎情報の不完全性

ー→求人側・求職者側ともにどこにどのような求人・求職者が存在するかをすぐに 知ることができずに生じる

#### ◉労働者や企業の選考

→職業、年齢、賃金、雇用形態、地域などについて、求職者の希望と企業側の希望が一致しないことから生じる

出典 川田恵介・佐々木勝「雇用ミスマッチの概念の整理」日本労働研究雑誌 54(9),4-14,2012-09 厚生労働省職業安定局 「雇用を取り巻く環境と諸課題について」 https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-11601000-Shokugyouanteikyoku-Soumuka/0000062121\_1.pdf

#### 仕事につけない理由別失業者率



■賃金・給料が希望とあわない

- ■勤務時間・休日などが希望とあわない
- ■求人の年齢と自分の年齢とがあわない
- ■自分の技術や技能が求人要件に満たない■希望する種類・内容の仕事がない
- ■その他

■条件にこだわらないが仕事がない

#### 仕事につけない理由別失業者率



■賃金・給料が希望とあわない

- ■勤務時間・休日などが希望とあわない
- ■求人の年齢と自分の年齢とがあわない
- ■自分の技術や技能が求人要件に満たない■希望する種類・内容の仕事がない
- ■その他

■条件にこだわらないが仕事がない

# 雇用のミスマッチが生じる要因

#### ●職業能力の不一致

→企業が必要としている能力と労働者が持つ能力が不一致であることで生じる

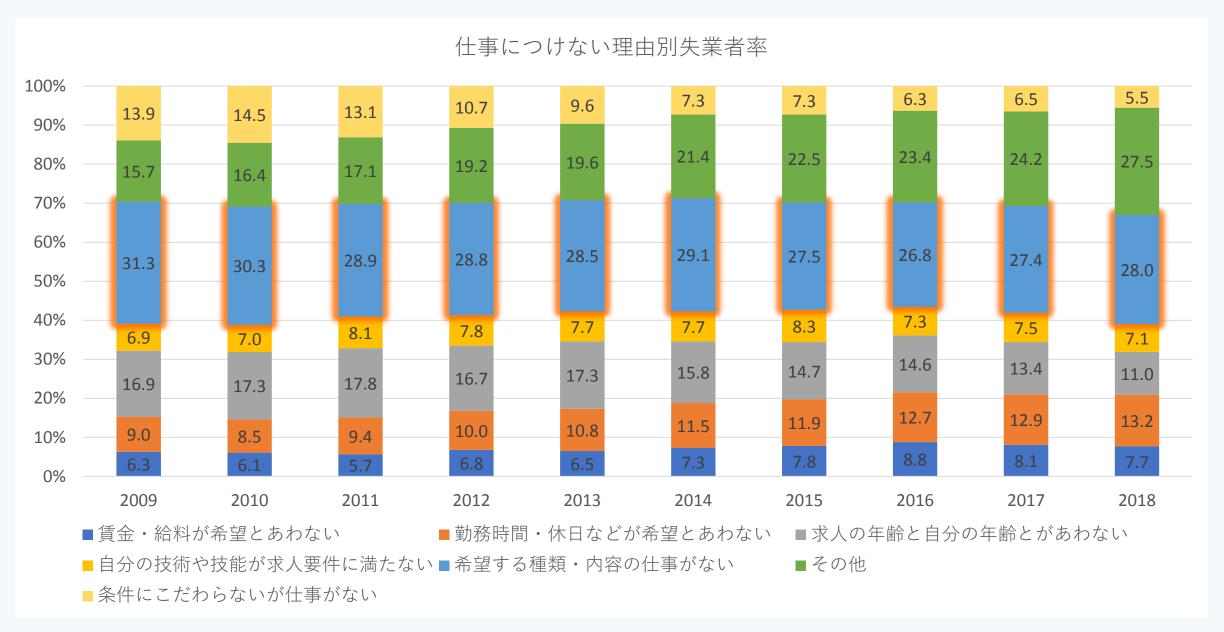
#### ●情報の不完全性

→求人側・求職者側ともにどこにどのような求人・求職者が存在するかをすぐに 知ることができずに生じる

#### ◉労働者や企業の選考

→職業、年齢、賃金、雇用形態、地域などについて、求職者の希望と企業側の希望が一致しないことから生じる

出典 川田恵介・佐々木勝「雇用ミスマッチの概念の整理」日本労働研究雑誌 54(9),4-14,2012-09 厚生労働省職業安定局 「雇用を取り巻く環境と諸課題について」 https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-11601000-Shokugyouanteikyoku-Soumuka/0000062121\_1.pdf



# 雇用のミスマッチが生じる要因

#### ◎職業能力の不一致

→企業が必要としている能力と労働者が持つ能力が不一致であることで生じる

#### ●情報の不完全性

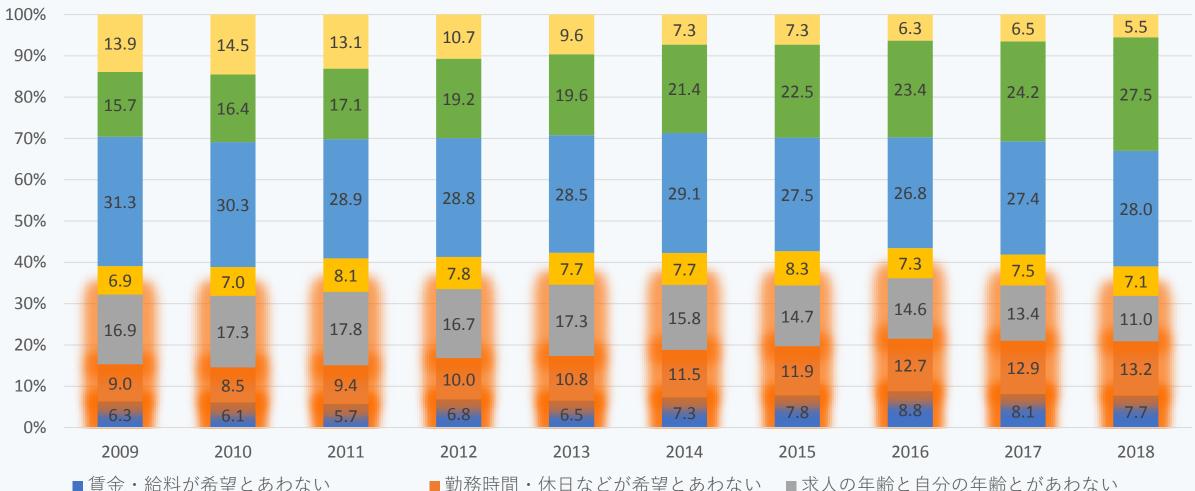
→求人側・求職者側ともにどこにどのような求人・求職者が存在するかをすぐに 知ることができずに生じる

#### ●労働者や企業の選考

→職業、年齢、賃金、雇用形態、地域などについて、求職者の希望と企業側の希望が一致しないことから生じる

出典 川田恵介・佐々木勝「雇用ミスマッチの概念の整理」日本労働研究雑誌 54(9),4-14,2012-09 厚生労働省職業安定局 「雇用を取り巻く環境と諸課題について」 https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-11601000-Shokugyouanteikyoku-Soumuka/0000062121\_1.pdf

#### 仕事につけない理由別失業者率



- ■自分の技術や技能が求人要件に満たない■希望する種類・内容の仕事がない
- ■その他

■条件にこだわらないが仕事がない

### 既存研究から…

•川田・佐々木論文→雇用のミスマッチが生じる要因を総務省の データから解釈

長谷川論文→ミスマッチが生じる要因をこの論文から抜粋 (年少人口率、外国人割合、パート率)

# ミスマッチの説明変数 (川田・佐々木論文)

- 自分の技術と技能が求人要件と満たない→大学進学率
- ・求人の年齢と自分の年齢とが合わない→35歳以上の平均失業率
- 条件にこだわらないが仕事がない→GDP増減率
- ・希望する種類、内容の仕事がない→新規求人数の増減率
- ・ 賃金、給料が希望と合わない→現金給与額の増減率

出典 川田恵介・佐々木勝「雇用ミスマッチの概念の整理」日本労働研究雑誌 54(9),4-14,2012-09

## ミスマッチの説明変数 (長谷川論文)

- 若年人口率(15~24歳人口の比率が低い場合、非正規雇用が増加し、需給ミスマッチが大きい)
- 外国人割合(外国人は日本との文化の違いなどにより、離職率が高くなり需給ミスマッチが発生する)
- パート率(パート求人の比率が高まると、フルタイムの仕事を 求める失業者の増加との間で、需給ミスマッチが発生する)

出典 長谷川 理映 「地域データに基づく労働市場の需給ミスマッチの決定要因」関西学院経済学研究 163-179 2009-12-20

説明変数	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
大学進学率	0.357347	0.162034198	0.335156401	0.252788285	0.215110638
	(2.162212637)	(1.231109756)	(2.311857147)	(1.920211149)	(1.597869166)
35歳以上の平均	0.439572	0.835145835	0.475826057	0.670431893	0.735410133
失業率	(0.974241091)	(2.042551853)	(1.181811385)	(1.734597781)	(1.815540004)
若年人口率	4.169659	3.245726128	5.479046976	3.103998899	4.615528886
	(1.134639682)	(1.012883144)	(1.805540999)	(1.057603153)	(1.399757932)
外国人割合	2,441998	1.81264731	2.667059032	1.891380302	2.130015566
	(1.792650578)	(1.408606633)	(2.20265082)	(1.604172855)	(1.670093403)
パート率	-0.12342	0.205507341	0.437323926	-0.132404303	0.554733399
	(-0.11654977)	(0.252885845)	(0.603951422)	(-0.172010145)	(0.663002568)
GDP成長率	0.154449 (1.135116211)		0.158623928 (1.982981778)		
新規求人数の 増減率	0.018005 (0.787830426)			0.023042588 (1.711826232)	
現金給与額の 増減率	-0.10945 (-0.575025905)				0.131527726 (1.26185575)
補正R2	0.765864	0.742749461	0.80107777	0.784372999	0.757133931

# (1)全ての説明変数

説明変数	係数	t 値
大学進学率	0.357347	2.162212637
35歳以上の平均失業率	0.439572	0.974241091
若年人口率	4.169659	1.134639682
外国人割合	2,441998	1.792650578
パート率	-0.12342	-0.11654977
GDP成長率	0.154449	1.135116211
新規求人数の増減率	0.018005	0.787830426
現金給与額の増減率	-0.10945	-0.575025905
補正R2	0.765864	

# (2) 単回帰分析をして有意であったもの

説明変数	係数	t 値
大学進学率	0.162034198	1.231109756
35歳以上の平均失業率	0.835145835	2.042551853
若年人口率	3.245726128	1.012883144
外国人割合	1.81264731	1.408606633
パート率	0.205507341	0.252885845
補正R2	0.742749461	

# (3)(2)×GDP增减率

説明変数	係数	t 値
大学進学率	0.335156401	2.311857147
35歳以上の平均失業率	0.475826057	1.181811385
若年人口率	5.479046976	1.805540999
外国人割合	2.667059032	2.20265082
パート率	0.437323926	0.603951422
GDP成長率	0.158623928	1.982981778
補正R2	0.80107777	

# (4)(2)×新規求人数の増減率

説明変数	係数	t 値
大学進学率	0.252788285	1.920211149
35歳以上の平均失業率	0.670431893	1.734597781
若年人口率	3.103998899	1.057603153
外国人割合	1.891380302	1.604172855
パート率	-0.132404303	-0.172010145
新規求人数の増減率	0.023042588	1.711826232
補正R2	0.784372999	

# (5)(2)×現金給与額の増減率

説明変数	係数	t 値
大学進学率	0.215110638	1.597869166
35歳以上の平均失業率	0.735410133	1.815540004
若年人口率	4.615528886	1.134639682
外国人割合	2.130015566	1.670093403
パート率	0.554733399	0.663002568
現金給与額の増減率	0.131527726	1.26185575
補正R2	0.757133931	

## 回帰分析のまとめ1

- ・全部の回帰分析では、大学進学率と外国人割合が有意であった。
- 単回帰分析をして有意であったものを重回帰分析すると、35歳 以上の平均失業率が有意であった。…①
- ・①にGDP成長率を加えたものを重回帰分析すると、大学進学率と若年人口率と外国人労働者の割合とGDP成長率が有意となった。

## 回帰分析のまとめ2

### • 【大学進学率】

大学に不本意で入学したり、なんとなく入学したりすることで、自分のやりたいことが見つからず就職したときに自分と企業との間にミスマッチが生じる。

### • 【35歳以上の平均失業率】

リストラなどで仕事を辞めたときに再就職がしにくい環境であるため ミスマッチが生じる。

### • 【外国人割合】

日本の景気が良くなって外国人が出稼ぎに日本に来るが、文化の違いなどによって失業率が高くなり、ミスマッチが生じる。

## ミスマッチを減らすための政策1

・【35歳以上の平均失業率】に対する政策

…日本においてこの世代は就職氷河期の世代と言われており、 この世代に対する失業対策はすでに行われており、新しい政策を 導入する必要はないと考えられる

## • 【外国人割合】に対する政策

…日本において外国人雇用は景気による雇用調整のために用いられていることが多く、雇用がなければ帰国することも考えられ、外国人雇用のミスマッチ解消政策を導入することは難しい

## ミスマッチを減らすための政策2

• 【大学進学率】を原因とするミスマッチに対する政策

…大学の不本意入学や進学によるミスマッチを避けるためには高校卒業後に自分の進路をじっくり考える時間が必要であり、その時間を与えることは今の日本では難しいため、国の政策として、ギャップイヤーの制度創生が必要



## ギャップイヤーとは

- 高校卒業後に大学に入学するまでに半年、1年といった期間を設けて学校生活では得られない経験(ワーキングホリデー、インターンシップ、海外留学、ボランティアなど)を得るための期間のこと
- アメリカやオーストラリアなどの数か国では実際に導入されつつあり、大学の成績向上やギャップイヤー非経験者より就学力が高いなどの研究結果がある
- ただの休暇ではなく、きちんとした労働倫理感を持ち続け、計画と時間管理をし、スキルと能力を伸ばす時間

出典 秦 由美子 「英国におけるギャップイヤーなど、学生または入学予定者に対する長期に渡る 社会経験を可能とする取組みに関する調査研究」 広島大学 高等教育研究開発センター

## ギャップイヤーのメリット

- ギャップイヤーによって普段の学校生活ではできない経験(ワーキングホリデー、インターンシップ、海外留学、ボランティア)によって、今までにない価値観を見つけて自分のやりたいことやコミュニティーの幅を広げ、新しい視点を新しい方法で学ぶことができる
- ギャップイヤーの経験で視野を広げることにより将来やりたいことが見つかっておらず、専攻分野も分かっていない人の大学選びの手助けになる
- →自分のやりたいことが見つかり、将来設計が明確になることにより 不本意入学が減り、ミスマッチの解消につながる

## ギャップイヤーの課題点

- 長い期間で多額の費用をかけギャップイヤーを行ったが本当にやりたいことが見つかったか分からない
- 同じギャップイヤーでも活動内容によっては大学や企業の評価が 低い
- ・まだ日本ではギャップイヤーの認知度が低く、ギャップイヤーの システムが確立されていない

**\** 

認知度を高めて、大学・企業・国と連携を取り 日本版ギャップイヤー創設のための政策を制定する必要がある

### ヒアリング

愛知労働局 岡本様より

- ギャップイヤーが可能かどうか
- →今の日本では企業や大学での理解が進んでいないため、導入するのが難しい。しかし、国がギャップイヤーの政策を打ち出すとしたら実現可能だと思われる。

- ・ギャップイヤー導入の効果
- →企業と合う、合わないのミスマッチの離職は減ると思われる。

### まとめ1

- ・リサーチクエスチョン
- …現在の日本は有効求人倍率が高く人手不足なのになぜ完全失業率は 0にならないのか
- →雇用のミスマッチが原因

- ・ 回帰分析からわかったこと
- …【大学進学率】・【35歳以上の平均失業率】・【外国人割合】が

ミスマッチに影響している

### まとめ2

・問題点

…大学の不本意入学や進学のミスマッチが生じており、就職したときのミスマッチにつながる

・政策

…ギャップイヤーの導入

ご清聴ありがとうございました

### 参照

# 回帰分析の結果(1)

#### 概要

<u> </u>	可帰統計 可帰統計
重相関 R	0.943788
重決定 R2	0.890736
補正 R2	0.765864
標準誤差	0.436755
観測数	16

	自由度	変動	分散	観測され た分散比	有意 F
回帰	8	10.88545	1.360681	7.133151	0.008869
残差	7	1.335282	0.190755		
合計	15	12.22073			
					•

	係数	標準誤差	+	P-値	下限 95%	上 ₹目 Q 5 %	卜限	上限
	不好	保华缺左	ι	F - II⊑	179又 3570	工队 95/6	95.0%	95.0%
切片	-81.2059	67.24419	-1.20763	0.266405	-240.213	77.80137	-240.213	77.80137
現金給与額(対前年比)	-0.10945	0.190337	-0.57503	0.583275	-0.55952	0.340627	-0.55952	0.340627
大学(学部)・短期大学(本科)への進学率 (過年度高卒者等を含む)	0.357347	0.165269	2.162213	0.067387	-0.03345	0.748146	-0.03345	0.748146
35歳以上平均失業率	0.439572	0.451194	0.974241	0.362393	-0.62733	1.506477	-0.62733	1.506477
パート割合	-0.12342	1.058953	-0.11655	0.91049	-2.62745	2.380606	-2.62745	2.380606
外国人割合	2.441998	1.362227	1.792651	0.116127	-0.77916	5.663153	-0.77916	5.663153
GDP增加率	0.154449	0.136064	1.135116	0.293695	-0.16729	0.47619	-0.16729	0.47619
年少人口率(%)	4.169659	3.674875	1.13464	0.293881	-4.52004	12.85936	-4.52004	12.85936
新規求人数増減率(%)	0.018005	0.022854	0.78783	0.45664	-0.03604	0.072047	-0.03604	0.072047

#### ・回帰分析の結果(2)

#### 概要

	回帰統計	
重相関 R		0.91022
重決定 R2		0.8285
補正 R2		0.742749
標準誤差		0.457806
観測数		16

	自由度	変動	分散	観測された分散 比	 有意 F
回帰	5	10.12487	2.024974	9.661783	0.001381
残差	10	2.09586	0.209586		
合計	15	12.22073			

	係数	標準誤差	t	P-値	下限 95%	上限 95%	下限 95.0%	上限 95.0%
切片	-63.2149	58.46007	-1.08134	0.304935	-193.472	67.04224	-193.472	67.04224
大学(学部)・ 短期大学(本								
科)への進学率(過年度高卒者	0.162034	0.131616	1.23111	0.246451	-0.13123	0.455294	-0.13123	0.455294
等を含む)								
35歳以上平均失 業率	0.835146	0.408874	2.042552	0.068355	-0.07588	1.746173	-0.07588	1.746173
パート割合	0.205507	0.812649	0.252886	0.805479	-1.60519	2.016201	-1.60519	2.016201
年少人口率 (%)	3.245726	3.204443	1.012883	0.334996	-3.89422	10.38567	-3.89422	10.38567
外国人割合	1.812647	1.286837	1.408607	0.189276	-1.0546	4.679899	-1.0546	4.679899

#### ・回帰分析の結果(3)

#### 概要

	回帰統計	
重相関 R		0.938428
重決定 R2		0.880647
補正 R2		0.801078
標準誤差		0.402573
観測数		16

	自由度	変動	分散	観測された分散 比	有意 F
回帰	6	10.76215	1.793691	11.06773	0.001021
残差	9	1.458585	0.162065		
合計	15	12.22073			

	係数	標準誤差	t	P-値	下限 95%	上限 95%	下限 95.0%	上限 95.0%
切片	-105.085	55.57435	-1.89088	0.091208	-230.802	20.63337	-230.802	20.63337
大学(学部)・ 短期大学(本								
科)への進学率	0.335156	0.144973	2.311857	0.046096	0.007205	0.663108	0.007205	0.663108
(過年度高卒者 等を含む)								
35歳以上平均失 業率	0.475826	0.402624	1.181811	0.267564	-0.43497	1.386626	-0.43497	1.386626
パート割合	0.437324	0.724104	0.603951	0.560789	-1.20071	2.075362	-1.20071	2.075362
年少人口率 (%)	5.479047	3.034574	1.805541	0.10447	-1.38564	12.34373	-1.38564	12.34373
外国人割合	2.667059	1.210841	2.202651	0.055102	-0.07205	5.406171	-0.07205	5.406171
GDP増加率	0.158624	0.079993	1.982982	0.078681	-0.02233	0.33958	-0.02233	0.33958

### 回帰分析の結果(4)

#### 概要

	回帰統計	
重相関 R		0.933072
重決定 R2		0.870624
補正 R2		0.784373
標準誤差		0.419136
観測数		16

	自由度	変動	分散	観測された分散 比	有意 F
回帰	6	10.63966	1.773277	10.0941	0.001441
残差	9	1.581072	0.175675		
合計	15	12.22073			

	係数	標準誤差	t	P-値	下限 95%	上限 95%	下限 95.0%	上限 95.0%
切片	-61.3329	53.53335	-1.1457	0.281471	-182.434	59.76794	-182.434	59.76794
大学(学部)・ 短期大学(本 科)への進学率 (過年度高卒者 等を含む)	0.252788	0.131646	1.920211	0.087027	-0.04502	0.550592	-0.04502	0.550592
35歳以上平均失 業率	0.670432	0.386506	1.734598	0.116839	-0.2039	1.544768	-0.2039	1.544768
パート割合	-0.1324	0.769747	-0.17201	0.867235	-1.87369	1.608885	-1.87369	1.608885
年少人口率 (%)	3.103999	2.934937	1.057603	0.317796	-3.53529	9.743288	-3.53529	9.743288
外国人割合	1.89138	1.179038	1.604173	0.143139	-0.77579	4.558549	-0.77579	4.558549
新規求人数増減 率(%)	0.023043	0.013461	1.711826	0.121086	-0.00741	0.053493	-0.00741	0.053493

### ・回帰分析の結果(5)

概要

	回帰統計	
重相関 R		0.924273
重決定 R2		0.85428
補正 R2		0.757134
標準誤差		0.444822
観測数		16

	自由度	変動	分散	観測された分散 比	有意 F
回帰	6	10.43993	1.739988	8.793739	0.002388
残差	9	1.780801	0.197867		
<u> 合計</u>	15	12.22073			

	係数	標準誤差	t	P-値	下限 95%	上限 95%	下限 95.0%	上限 95.0%
切片	-88.8189	60.31747	-1.47252	0.174967	-225.267	47.62865	-225.267	47.62865
大学(学部)・ 短期大学(本								
科)への進学率 (過年度高卒者 等を含む)	0.215111	0.134623	1.597869	0.144537	-0.08943	0.51965	-0.08943	0.51965
35歳以上平均失 業率	0.73541	0.405064	1.81554	0.102828	-0.18091	1.651729	-0.18091	1.651729
パート割合	0.554733	0.836699	0.663003	0.523944	-1.33801	2.447477	-1.33801	2.447477
年少人口率 (%)	4.615529	3.297376	1.399758	0.195099	-2.84365	12.07471	-2.84365	12.07471
外国人割合	2.130016	1.275387	1.670093	0.12924	-0.75511	5.015142	-0.75511	5.015142
現金給与額(対 前年比)	0.131528	0.104234	1.261856	0.238721	-0.10426	0.36732	-0.10426	0.36732